

平成 29 年 9 月 15 日現在

機関番号：34303

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06726

研究課題名(和文)ドクターヘリでの安心・安楽な母体搬送のための搬送体制に関する研究

研究課題名(英文)Research about the conveyance system for the maternal transport that is relief and the comfort with the helicopter emergency medical service

研究代表者

谷口 光代(TANIGUCHI, MITSUYO)

京都学園大学・健康医療学部・助教

研究者番号：30613806

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：ドクターヘリにより母体搬送される妊産婦を安心・安全に搬送することを目的とした本研究は、搬送時の状況と妊産婦のニーズの調査を行うために研究協力病院との打ち合わせを行ってきた。研究協力病院の変更や、その後の調整などに時間を要した。これからも全国の母体搬送をはじめ、ドクターヘリでの母体搬送も年々増加しており、本研究の意義は大きいため、研究を継続していく。

研究成果の概要(英文)：This research was intended to take a maternal conveyed pregnant woman to relief, the security by a Helicopter Emergency Medical Service (HEMS). We conducted the meeting with the study cooperation hospital to investigate the situation at conveyance and the needs of the pregnant woman.

Including national maternal transport, the maternal transport by HEMS increases year by year, too and continues a research from now on because the significance of this research is big.

研究分野：母性看護学、助産学

キーワード：ドクターヘリ 母体搬送

1. 研究開始当初の背景

周産期は、母子ともに生命にかかわる緊急事態が発生しやすい時期である。そのため、周産期救急においては、迅速に適切な医療を提供するための周産期救急医療体制の充実・強化が重要な課題となっている。

平成 19 年にドクターヘリを用いた救急医療の全国的な確保を図るために「救急医療用ヘリコプターを用いた救急医療の確保に関する特別措置法」が制定され、平成 25 年には 36 道府県で 43 機が配備され、全国のドクターヘリの出動数も過去最多を更新し年々増加している。分娩施設、周産期医療施設の集約化や重点化により近隣施設での母体搬送受け入れ困難も全国で大きな問題となっているのが現状であり、今後もドクターヘリによる母体搬送が増加していくことは予想される。

平成 21 年に政府が諮問する「周産期医療と救急医療の確保と連携に関する懇談会」では医療の「安全」と子を産み育てることへの国民の「安心」と「希望」の確保を最優先することを国の責務としている。周産期救急医療の整備体制は、妊産婦のニーズに合った整備体制ができてこそ、周産期救急医療における「安心」と「安全」の確保につながり、政府が諮問することと合致するといえる。そのためには、搬送された妊

産婦のニーズ、同乗する医療者の妊産婦への対応やドクターヘリの機内環境を明確にしたうえで、妊産婦の安全が守られることはもとより安心・安楽に搬送できる、現場で実践可能なケアにつなげていくことが早急に必要である。

2. 研究の目的

目的：本研究の目的は、ドクターヘリにより母体搬送される妊産婦を安心・安全に搬送することを目指している。具体的には、ドクターヘリで搬送された妊産婦のニーズと搬送中の状況を明らかにすることと、ドクターヘリの機内環境と母体搬送時の同乗医療者の妊産婦の管理及び対応などの実態を明らかにすることである。

意義：母体搬送は、妊産婦の特徴を配慮した搬送ができなければ、母児の安全は守れない。本研究を行い母体搬送される妊産婦のニーズが明らかになることで、母体搬送に携わる医療従事者のみならず、医療者の専門を問わず一貫したケアを提供することが期待できる。そのことが、緊急な状況の中でも妊産婦が安心・安全に搬送されることに貢献でき、その意義は大きい。これは、教育現場にも活用される貴重な資料となることが期待される。

3. 研究の方法

1) 研究デザイン

自記式質問紙調査

2) 対象者

ドクターヘリにより母体搬送された妊産婦

ドクターヘリにより母体搬送された妊産婦を対象に、アンケート調査を行う。かかりつけの病院（搬送元の病院）より、母体搬送された対象者に、搬送元の病院より電話で研究の目的と方法について十分説明し、承諾を得る。その後、同意を得られた対象者に質問紙を配布する。

3) 倫理的配慮

(1)本研究については、研究代表者の所属する研究機関の倫理委員会で承諾を得たあとに研究を実施する。協力病院での倫理審査が必要な場合は、さらに協力病院での倫理審査を受け承諾を得る。

(2)回答内容についてはプライバシー保護が十分になされること、結果の発表に際しては、個人等が特定されるようなことがないことを対象者に説明する。

(3)対象者の人権擁護として、個人データの管理・分析は、ネットワークから隔離された状態の専用パソコンで、パスワードを用いて管理する。専用パソコンは、CPU ウィルス防止対策機能のあるものを使用し、ネ

ットワークには接続せず、自動的流出を予防する。さらに、専用パソコンや、情報の入った USB メモリは、鍵のかかる戸棚で研究代表者が保管する。個人の情報の保管は、解析データにした後、消去する。

(4)対象者が特定されないように、データを暗号化し、匿名化する。

4. 研究成果

本研究の対象者は、ドクターヘリにより搬送された妊産婦を対象としているため、研究協力病院の協力のもと研究を進めるにあたり打ち合わせを重ねてきた。しかし、当初予定していた研究協力病院で対象者の依頼を行うことが困難となり、研究協力病院の変更が生じた。本研究を行うにあたり、全体的に打ち合わせ等に時間を要してしまいが、変更後、研究協力病院の理解と協力のもと研究開始となっている。

これからも全国の母体搬送をはじめ、ドクターヘリによる母体搬送も年々増加しているのが現状であり、本研究の意義は大きいと考えるため、研究を継続していく。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 2 本)

谷口光代, 根路銘安仁, 北村愛ほか: HTLV-1
キャリア妊産婦からの相談内容 鹿児島県の

保健師および助産師への調査結果から，インターナショナル Nursing Care Research Vol.15.No.2，査読あり，73-82.2016.

美甘祥子，杉山智春，谷口光代：母体血清マーカー検査の結果が陰性であった褥婦の胎児への不安や検査への認識，インターナショナル Nursing Care Research Vol.15.No.2，査読あり，23-31.2016.

[学会発表] (計 7本)

Shoko M, Chiharu S, Mitsuyo T, Anxiety about the fetus and awareness of testing in puerperal women with negative results on the maternal serum screening, 19th EAFONS, 2016.3.

福岡美和，谷口光代，内田みさと：離島で働く助産師が職場で感じる満足と不満足 ハーズバーグの二要因理論をもとに考える，第35回日本看護科学学会学術集会，2015.12.

野中涼子，谷口光代，下敷領須美：地域で守る妊婦の安心プロジェクトからの考察，第1回ALSO - Japan 学術集会，2015.10.

野中涼子，谷口光代，新納直久：BLSOを通して構築される地域周産期ネットワーク，第1回ALSO - Japan 学術集会，2015.9.

Mitsuyo T， Sumiko S: The influence that the environment in the helicopter during maternal transport gives

-Based on the hearing investigation of the person concerned-, 第11回ICMアジア太平洋地域会議・助産学術集会, 2015.7.

Sumiko S, Mitsuyo T, Aik: The Current status of HTLV-1 mother-to-child transmission prevention in Kagoshima —With a focus on short-term breastfeeding—, 第11回ICMアジア太平洋地域会議・助産学術集会, 2015.7.

谷口光代，下敷領須美子：ヘリコプターによる離島からの母体搬送体験分析 - 妊産婦の聞き取り調査をもとに - ，第29回日本助産学会, 2015.3.

[産業財産権]

出願状況 (計 0本)

取得状況 (計 0本)

6. 研究組織欄

1) 研究代表者

谷口 光代 (TANIGUCHI Mitsuyo)

京都学園大学・健康医療学部・助教

研究者番号：30613806

2) 研究分担者 なし

研究者番号：

3) 連携研究者 なし

研究者番号：